

授業科目名	国文学特論(2100256)		
時間割名	国文学特論(23112)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	火・3		

授業の目標・概要

個人の和歌を集めた私家集を取り上げて講義を行う。私家集は、多数の歌人の歌を選録した勅撰和歌集や私撰和歌集とは異なる要素を内包する歌集群である。このような未開拓の宝庫である私家集の魅力を知り、私家集の研究によって物語・日記・紀行・歴史物語などの古典文学研究に新しい光をあて得ることを学ぶ。

学習の到達目標

本講義の目標は以下のとおりである。

- (1) 私家集の性質を把握する。
- (2) 私家集と他ジャンルの作品との関係について考える。
- (3) 国文学研究に付随する資料の取り扱い方を身につける。
- (4) 『伏見院御集』所収の和歌鑑賞を通して、和歌に対する読解力、理解力および洞察力を身につける。

授業方法・形式

講義を中心に行うが、受講生の研究発表を適宜求める。配付資料に沿って、具体的な言語現象について解説を行うが、受講生の積極的な研究発表を求める。毎時間、所見カードの記述を求める。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 授業の進め方と評価方法、予習の仕方などについて説明する。
- 第2回 私家集の性質について 勅撰集や私撰集と、私家集との性質の違いについて考える。
- 第3回 私家集の変遷について 私家集がどのように発生し、変遷をたどったか、文学史的側面から概説する。
- 第4回 伏見院の生涯と和歌および書道について
この授業で取り上げる『伏見院御集』の作者、伏見院の生涯と和歌および書道について概説する。
- 第5回 『伏見院御集』の古筆切について1
伏見院の私家集である『伏見院御集』の外面的性格と、現存する同集の古筆切について概説する。
- 第6回 『伏見院御集』の古筆切について2
現存する『伏見院御集』の一部である広沢切について取り上げ、そこから読み取られる伏見院の書風や歌風について考える。
- 第7回 古筆切の取り扱い方について
『伏見院御集』広沢切の写真資料を使用して、古筆切に関する知識や取り扱い方を説明し、それらを実際の文学研究にどのように生かしていくのかを学ぶ。
- 第8回 『伏見院御集』の作品鑑賞 春の歌1
広沢切のうち、春の歌を多く収載する切を取り上げる。主に、『和泉式部日記』や『源氏物語』を踏まえた作品を鑑賞する。
- 第9回 『伏見院御集』の作品鑑賞 春の歌2
勅撰集や私撰集収載歌へと精錬されるまでの習作の課程を意識しながら、春の歌を鑑賞する。
- 第10回 『伏見院御集』の作品鑑賞 夏の歌
広沢切のうち、夏部だけを集めた切を取り上げる。部立について考慮しながら、作品鑑賞を行う。
- 第11回 『伏見院御集』の作品鑑賞 秋の歌1
広沢切および東京国立博物館蔵『伏見院詠草』に収載される秋の歌を鑑賞する。
勅撰集や私撰集とは異なる、私家集の伝存の問題についても考える。
- 第12回 『伏見院御集』の作品鑑賞 秋の歌2
広沢切の秋の歌を鑑賞し、典型的な古典和歌の表現と伏見院の歌風の特徴を学ぶ。
- 第13回 『伏見院御集』の作品鑑賞 冬の歌
広沢切の冬の歌を鑑賞し、典型的な古典和歌の表現と伏見院の歌風の特徴を学ぶ。
- 第14回 『伏見院御集』の作品鑑賞 雑の歌
広沢切のうち、万葉集の歌句を句題とする和歌を中心に取り上げ、古典作品受容について考える。
- 第15回 これまでの授業で見てきた、伏見院の歌の特徴と『伏見院御集』の特徴についてまとめる。

成績評価の基準

定期試験40%、授業中に課す課題30%、小レポート30%の割合で、総合的に評価を行う。

授業時間外の課題

1. 配布資料をよく読み、わからない言葉などは辞書などで調べること。
2. 授業で紹介した資料はよく読んでおくこと。

メッセージ

基礎科目の内、「国文学入門」「国文学 Ⅰ」「国文学 Ⅱ」を受講した後に、受講することがのぞまれる科目である。

教材・教科書

- ・テキストとして、資料を配付する。

参考書

・参考書：久保木哲夫・別府節子・石澤一志・久保木秀夫編『伏見院御集〔広沢切〕伝本・断簡集成』。阿尾あすか『コレクション日本歌人選12 伏見院』。